

<英文法超基礎⑦> Lv.★★★★☆☆ 対象: 中3~

① 関係詞の働き

名詞を節 [= 文の形] で修飾するときに使うのが (1.) で、1には (2.)・(3.)・(4.)がある。

① I have a friend. + ② He lives in Canada. ← "a friend = He"

→ I have a friend [who lives in Canada]. 「私にはカナダに住んでいる友人が居る。」

この **who** が **関係詞** で "a friend" を修飾する [5.] として働いている。この修飾される名詞 (今回は a friend) を (6.) と呼ぶ。

②の文で "He" とされていた①の "a friend" が **who** に置き換えられて1つの文になっている。**who** 自体は (7.) として働いている、ということは品詞は (8.) なので、この **who** は (9.) になります。

☆ **関係詞のカタマリ**は [10.] を作って、後ろから名詞を修飾する!

② 関係代名詞の種類

関係代名詞は (11.) + (12.) の4種類で、先行詞が「人」か「人以外」かによって異なり、節中で **主語** として働く (13.)、**目的語** として働く (14.) がある。

<関係代名詞の種類>

先行詞	主格	目的格	(所有格)
人	(15.)	(18.)	whose
人以外	(16.)	(19.)	whose
両方	(17.)	(20.)	—

※ 関係代名詞の what は少し特殊なので、また詳しくやります!

I want a house [which [that] has a nice kitchen].
 ⑤ ① ② → 人以外 → S' = it [a house] V' O'

→ 先行詞が "a house" は「人以外」なので **関係代名詞** は **which** となる。**which** はカタマリの中で (21.) として働いているので、**主格の関係代名詞**!

「私は、すてきな台所がある家がほしい」

③ 主格の関係代名詞

主格用法とは、関係代名詞がそれに続く節の中で (22.) の働きをしていることを言う。

先行詞が人の場合は (23.), 人以外の場合は (24.), またはその両方が可能な (25.) を使う。また、関係詞の後ろの V は (26.) に合わせる。

→ 先行詞が人の場合は that よりも who を使うことがほとんど!

The people [who live (next door)] are friendly.
⑤ S(=they) V' ⑩ ⑥

「隣に住んでいる人々は接しやすい」

I visited the shop [which opened (last week)].
⑤ ⑩ ⑥ S(=it) V'

「私は先週オープンしたその店を訪れた」

④ 目的格の関係代名詞

目的格用法とは 関係代名詞がそれに続く節の中で (27.) の働きをしていることを言う。

先行詞が人の場合は (28.)・(29.)

人以外の場合は (30.)・(31.) を使う。

☆ 目的格の関係代名詞は (32.)!

The boy [(whom) [that] I met yesterday] was Tom.
⑤ O' S V' ⑩ ⑥

「私が昨日会ったその少年はトムだった」

This is the city [(which) [that] I lived in last year].
⑤ ⑩ ⑥ ⑧のO' S V' ⑩

「ここは、昨年私が住んでいた街だ」

< 関係代名詞の省略を見極めるコツ >

(33.) を見たら、V の後ろに (34.) がチェック

→ なければ、which や that が省略されている! ⑧の後ろも!

The test I took yesterday was difficult.
⑤ S V ⑩